



も み じ

第8号

【ホームページ】<http://akihaku-dai1.city-niigata.ed.jp>



～花壇に咲いたヒガンバナ～

これからを生きる子どもたちに

9月27日（土）晴天。全園児がそろい新津第一幼稚園の運動会を実施しました。保護者の皆様には、たくさんのご声援、ご協力をいただきありがとうございました。

運動会は何のために行事としてあるのでしょうか。幼稚園教育要領には、心身の健康に関する「健康」という領域があります。そこに「生涯を通じて健康で安全な生活を営む基盤は、幼児期に愛情に支えられた安全な環境の下で、心と体を十分に働かせることによって培われていくもの」とうたわれています。単に身体が健康なだけでなく、先生や友達との信頼関係を結んだ中で気持ちが安定し、その子らしく伸び伸びと自分のやりたいことに向かってほしい。また保護者の皆様にも子どもたちの成長した姿をご覧いただき、ともに子育ての喜びを共感していただきたいと願い、運動会として行っています。

年長もみじ組の親子競技「ムシムシたんけんたい」で、スズメバチの巣をやっつける場面がありました。大小の箱を積み上げたものを巣に見立て、これに球をぶつけて落とします。始めは一人一人が思い思いに球をぶつけますが、最後の大きい箱になった時に、子どもから「いっ、せーの一で！」と掛け声があがり、5人が寄ってきて同じ方向にそろって球を投げるようになりました。これは自分一人の力では落ちないけれど、いくつかの球が一緒に当たると落ちることに気付いたからこそ、まさに同じ目的に向かって力を合わせる姿です。

もうひとつは、年長中組の10人による3種競技です。今回、玉入れは赤チーム、綱引きは白チームが勝ち、1対1で迎えたリレーは引き分けとなり、最終結果が「引き分け」で終わりました。決着をつけるか子どもたちに聞いたところ、「今日は引き分けでいい」ということになり、再決戦はしませんでした。しかし、真剣に取り組んでいる子どもたちだからこそ、中途半端で終わらせず勝敗をきちんとつけ、喜びや悔しさを感じつつ先生たちに支えられながら、達成感を味わえるようにすることが必要だったかもしれません。

勝敗にこだわるようになる年長児は、これまでの過程で、勝つためにどうすればいいか「もっと早く走れるようにするには」「バトンをどうやって渡すといいのか」等を考えるようになってきました。年中児にとっては、勝敗よりその時走っている友達とどっちが速いかの方に思いが向いています。異年齢の子どもたち10人で切磋琢磨して思い切り楽しんだ競技でした。

競い合う競技の中で、子どもたちは思い通りにならないことや悔しい思いもたくさん経験してきました。幼児期の体験としては、マイナスの経験のように感じますが「思い通りにならないこともあること」「負けることもあること」「次のとき、また、チャレンジしてみようとする気持ちをもつこと」等を知る機会になります。乗り越える力のある幼児期だからこそ、意図して経験したことが10年後、20年後に活かされていくと私たちは信じています。

本来子どもたちは、体を動かすことが大好きです。体を動かすことは、体力面だけでなく、頑張ることや諦めないでやり遂げようとする「心の根っこ」にもつながっています。そして、その気持ちを一緒に感じてくれる友達や先生がいることで、次の目的に向かう生活が幼稚園では繰り返されていきます。

